

小学校5～6年生向け おすすめの本

リスト作成

山梨県公共図書館協会 児童奉仕研究部会Dブロック

山梨県立
図書館



ジッポ・ホンムズー世

甲府市立
図書館



ブックン

昭和町立
図書館



ひかりちゃん

中央市立
図書館



(田富) トミーくん (玉穂) すみれちゃん

目 次

*季節別おすすめ本一覧・・・・・・・・P1

*春におすすめの本・・・・・・・・P2～P4

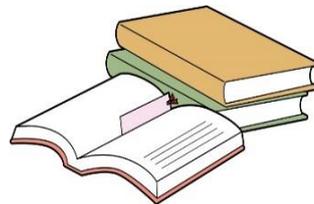
*夏におすすめの本・・・・・・・・P5～P7

*秋におすすめの本・・・・・・・・P8～P10

*冬におすすめの本・・・・・・・・P11～P13

ま え が き

小学5・6年生のみなさんに、春・夏・秋・冬の季節に合わせて読んでほしいおすすめの本のブックリストを作成しました。どんな本読もうかな？と思った時はこのリストを開いてみてください。



*各館のホームページ上からもこの冊子を見ることができます。
表紙の二次元コードを読み取ってください。

*本冊子掲載の記事、イラスト、写真等の無断転載を禁じます。

*本冊子は、教育機関（小学校・中学校・高校・特別支援学校）におけるプリントアウト、コピー、無料配布ができます。
（改変・切除などをご遠慮ください。）

5～6年生向け おすすめ本一覧（タイトル・五十音順）

～春におすすめの本～

- ・『風を切って走りたい！』
- ・『グッドジョブガールズ』
- ・『5000キロ逃げてきたアーメット』
- ・『サクラ・タイムトラベル』
- ・『さよならミイラ男』
- ・『自由への道』
- ・『10歳の質問箱』
- ・『セカイヲカエル』
- ・『ぼくの色、見つけた！』
- ・『見えるもの見えないもの 翔の四季 春』
- ・『リメイク！』

～夏におすすめの本～

- ・『朝顔のハガキ』
- ・『生き抜け！ 遭難の五日間』
- ・『江戸の空見師 嵐太郎』
- ・『ケンガイにっ！』
- ・『こどもとできるやさしい金継ぎ』
- ・『スイマー』
- ・『中村哲物語』
- ・『夏の庭』
- ・『ぼくは満員電車で原爆を浴びた』
- ・『真昼のユウレイたち』
- ・『レイさんといた夏』

～秋におすすめの本～

- ・『雨の日は好きな人』
- ・『稲と日本人』
- ・『髪がつなく物語』
- ・『銀杏堂』
- ・『世界を救うパンの缶詰』
- ・『中学生が伝える恐ろしいやまい・地方病』
- ・『トッケビのこんぼう』
- ・『梨の子ペリーナ』
- ・『美術館って、おもしろい！』
- ・『ひと箱本屋とひみつの友だち』
- ・『ものづくりっておもしろい！
おもちゃから乗り物まで』

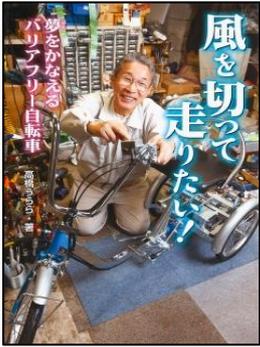
～冬におすすめの本～

- ・『あきらめなかった男
大黒屋光太夫の漂流記』
- ・『あした、また学校で』
- ・『いいたいことがあります！』
- ・『風になった優ちゃんと学校給食』
- ・『きみの鐘が鳴る』
- ・『サンタクロースがうまれた日』
- ・『サンタクロースっているんでしょうか？』
- ・『空から宝ものが降ってきた！』
- ・『チョコレートの王さま』
- ・『ぼくのお姉さん』
- ・『星明かり』

～ 春におすすめの本 ～

『風を切って走りたい！ 夢をかなえるバリアフリー自転車』

高橋うらら/著 (金の星社) 2019年



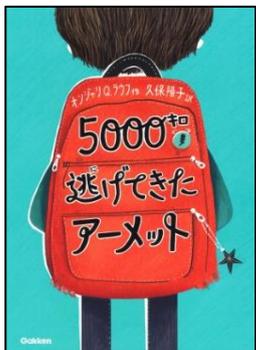
自転車に乗れると歩くよりずっと早いのでとても便利です。でも手足に不自由がある人やお年寄りの中にはふつうの自転車に乗れない人もいます。体にハンディキャップのある人でも乗りやすい特別な自転車を、乗る人の体の状態に合わせて一台一台ごとに工夫を重ねて、本当にその人が乗りやすい自転車を四十年間以上にわたって作り続けている堀田健一さんの、物を作るという事へのこだわりをもった自転車製造の仕事の様子をくわしく紹介します。

『グッドジョブガールズ』 草野たき/著 (ポプラ社) 2015年



母親が病死したあかり、親の離婚を自慢する由香、美人すぎる桃子の3人は互いのことを「悪友」と呼びます。親友のように本気で心配し、優しい言葉をかけることはなく、ふざけたり嫌みやジョークを言い合ったりするのです。3人は小学校卒業前に普通じゃない「思い出づくり」としてチアダンスで全国優勝を目指しますが、次第に気持ちにずれが生じます。

『5000キロ逃げてきたアーメット』 オンジャリQ.ラウフ/著 久保陽子/訳
(学研プラス) 2019年



イギリスの小学校に通う女の子アレクサのクラスに、笑わず話さないアーメットという男の子が転校してきました。アレクサと親友たちは転校生と仲良くなれましたが、難民という大変な立場で家族と離れ離れのアーメットのために、アレクサたちが考えた作戦は何とイギリス女王に手紙を書いてお願いすることでした。友だちを思う気持ちの大切さと今この時も世界中で難民として苦しい思いをしている人々がいることを考えさせられる一冊です。

『サクラ・タイムトラベル』 加部鈴子/作 (岩崎書店) 2014年



春休みに、市内の歴史博物館に出かけた志保は、いとこの龍之介と思いがけない大冒険をすることになります。博物館の非常口の外は、江戸時代の歴史的な大火事が起こる数日前でした。タイムスリップした二人は、大火事を最小限に抑えるよう博物館の館長から依頼されます。二人は、応える事が出来るのか！無事、桜の咲く現代に戻れるのか！大八車に乗せられた消火機の活躍はいかに！火事から人々を守ろうという二人の気持ちが多くの人々を動かします。

～ 春におすすめの本 ～

『さよならミイラ男』 福田隆浩/著 たけもとあかる/画（講談社）2024年



家庭で居場所がなく、教室にも行きたくない「ぼく」が、誰もいない教材室で出会ったのはなんとミイラ男。作中ではネグレクト・貧困などの家庭の問題、いじめ・学習障害などの学校の問題がそれぞれ登場します。「ぼく」が抱える問題はとても子ども一人では解決できない重たいものばかりです。それでも、冷たい冬から希望に満ちた春へと季節が変わっていくように、主人公である「ぼく」の未来が明るいものになることを感じさせる物語です。

『自由への道 奴隷解放に命をかけた黒人女性 ハリエット・タブマンの物語』

池田まき子/文 丹地陽子/絵（学研プラス）2019年



アメリカの過酷な奴隷制度や黒人の歴史について、どれくらい知っているでしょうか。1830年代末、奴隷として辛い日々を過ごし、奴隷主から逃げ出すことを夢見るひとりの少女がいました。十数年後に、彼女はそれを実現させたのでした。自由の体になると、さらに奴隷解放に向けて命がけで闘い続け多くの奴隷を救い続けるのでした。彼女の知恵と勇気ある行動を描いた本当にあった心動かされる物語です。

『10歳の質問箱 なやみちゃんと55人の大人たち』

日本ペンクラブ「子どもの本」委員会/編 鈴木のりたけ/絵（小学館）2015年



春は出会いと別れの季節。新しい環境で自分やまわりの人のこと、世の中のことなどいろんな悩みを抱えることになるでしょう。この本では、子ども達の悩みに人気作家55名が答えてくれます。ただし、同じ質問でも回答の内容は作家によってバラバラです。自分に合う回答・合わない回答があると思います。質問の答えは必ずしも一つになるわけじゃない。あと少しで中学校に入学し、多くの人と出会う皆さんには覚えておいてほしいことの1つです。

『セカイヲカエル』 嘉成晴香/著 小倉 マユコ/絵（朝日学生新聞社）2016年



彩人は小学6年生になる直前に、父親の仕事の都合で転校することになりました。1年後には戻る予定ですが、仲の良い連司（レン）と離れるのは、さみしく思いながらも引っ越しました。新しい学校にも慣れてきたある日、彩人は父親から謝りたいことがあると言われます。実は彩人と家族は20年前にタイムスリップしているというのです。父親の会社がタイムマシンの開発に成功し、父親が「20年前」の町で働くことになったのでした。

～ 春におすすめの本 ～

	<p>『ぼくの色、見つけた!』志津栄子/作 末山りん/絵（講談社）2024年</p> <p>主人公の信太郎は色覚障がいを持つ小学5年生。小学校2年生の夏に色覚障がいと診断されました。2学期になり信太郎の自画像を見たクラスメイトの足立友行が“口にチョコレートがついてる”と笑ってきます。その後は悔しい気持ちもありつつ、当り障りなく過ごしてきました。しかし、5年生になり再び友行と同じクラスになってしまいます。ですが、担任の平林先生と出会ったことで信太郎が大きく変わろうとします。信太郎の成長していく姿に心打たれます。</p>
--	---

	<p>『見えるもの見えないもの 翔の四季 春』齊藤洋/作 いとうあつき/絵（講談社）2024年</p> <p>主人公の翔は、不思議なある「力」を持っています。それは、音が遅れて聞こえる力。友人の涼も転校生杏もそれぞれ不思議な「力」を持っています。学校や身の周りの出来事から、翔達はその「力」を通して、「見える事、聞こえる事」を深く考えるようになります。翔は、友人達に助言を求め、意見を交換しながら、問題を解決しながら不思議な「力」に向き合って皆で成長していきます。翔の四季シリーズ、夏・秋・冬も続けて読む事をお勧めします。</p>
---	---

	<p>『リメイク!』あさだりん/作 いつか/絵（フレーベル館）2022年</p> <p>手芸クラブの部長を押し付けられたしっかり者の由希。バザー出展に向けて頑張る作品を制作する中で、部員唯一の男子ひかるが「男が手芸クラブなんて」と弟たち同級生に冷やかされている所に出会ってしまいます。そんな考えはおかしいと、主張し続け、面倒なやり取りにも目をそむけず、色々なトラブルも乗り越えながら成長していく由希と彼女を支える部員同士の関係性もさわやかに描かれています。</p>
--	--

春におすすめの本一覧（五十音順）

- 『風を切って走りたい!』
- 『10歳の質問箱』
- 『グッドジョブガールズ』
- 『セカイヲカエル』
- 『5000キロ逃げてきたアーメット』
- 『ぼくの色、見つけた!』
- 『サクラ・タイムトラベル』
- 『見えるもの見えないもの 翔の四季 春』
- 『さよならミイラ男』
- 『リメイク!』
- 『自由への道』

～ 夏におすすめの本 ～



『朝顔のハガキ』 山下みゆき/作 ゆの/絵 (朝日学生新聞社) 2020年

小学6年生の誠矢の家には毎年夏になると、朝顔の描かれたハガキが届きます。以前、祖母に見せたたんぱんに破り捨てられたので、翌年からは届いても見せずにとっておくようになりました。誠矢は今年のハガキに朝顔の絵が描かれていないことが気になり、同じ6年生の篤史に協力してもらい、ハガキの住所への行き方を調べます。祖母に計画を知られ、お金や通帳を取り上げられてしまいますが、母親がこっそり「ハガキの人」のことを教えてくれました。



『生き抜け! 遭難の五日間』 山口理/作 十々夜/絵 (文研出版) 2022年

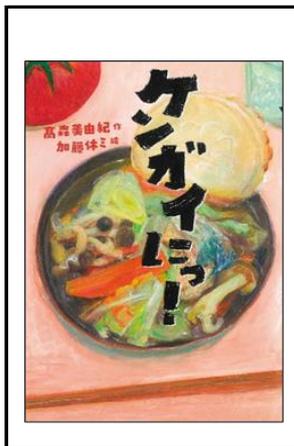
小学5年生の瞬はちょっぴり飽きっぽい性格の男の子です。夏休み中のトレッキング中、友達の二人とともに山で遭難してしまい、遭難5日目には「生きることも諦めそうになります。しかし彼らは気合を入れ直して歩き始めました。経験者から教わったことを思い出しながら生き抜きました。山に限らずどんな時にも、どんなにつらい事があろうとも生きる事だけは諦めないで欲しいという作者の思いが伝わってくる内容です。



『江戸の空見師 嵐太郎』 佐和みずえ/作 しまざきジョゼ/絵

(フレーベル館) 2020年

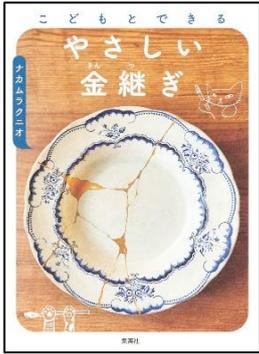
風や雨、気温など天気によってわたしたちの生活は大きな影響を受けます。これからの天気がわかることはとても大切なことですね。江戸時代に「空見師」と呼ばれた天気予報をする人たちがいたことを知っていますか？今の気象予報士です。空を見るのが何より好きな天才少年、嵐太郎が風を読むことで鎖国を続けていた日本に開国をせまる黒船が到着する日を予想する、歴史の大きな一場面を見るような物語です。



『ケンガイにっ!』 高森美由紀/作 加藤休ミ/絵 (フレーベル館) 2016年

小学5年生の俊は、毎日、夜中までオンラインゲームに夢中です。授業も上の空でいつも母ちゃんに怒られています。俊がゲームにのめりこむようになってしまったのは、弟の健太が事故で亡くなってからでした。ある夜、両親から電話料金の明細書を見せられ、クレジットカードを勝手に使い、ゲームに課金したことを叱られます。成績も下がった俊は、夏休み中、田舎のおばあちゃんの家に行くことを命じられました。

～ 夏におすすめの本 ～



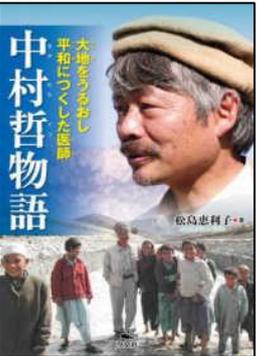
『こどもとできる やさしい金継ぎ』ナカムラクニオ/著（集英社）2024年

金継ぎは壊れた器をうるしを使って接着し、金、銀、朱色などで飾る日本の伝統的な技法です。何度でも修復ができるので、SDGsの観点からも注目されています。この本では、皆さんでも扱いやすいウルシ科の天然樹脂を使用し、手順の写真も多く掲載されておりわかりやすく気軽に挑戦しやすくなっています。実は、金継ぎは器だけではなく、ガラスや木、石にも行うことができます。ぜひ皆さんの感性で素敵な作品を作ってみてくださいね。



『スイマー』高田由紀子/著 結布/絵（ポプラ社）2020年

水泳から心が離れ、練習もさぼり気味だった主人公向井航。引っ越し先の佐渡で出会う同級生の海人、龍之介、信司の3人に地元プール存続のため、水泳チームに誘われます。友情・努力・挫折そして仲間。ぶつかり合ったり、すれ違ったり、それでもみんなで勝ちたい！青春に必要な要素がこれでもかと詰め込まれた競泳小説です。仲間や絆、チームワークの大切さがまっすぐ伝わってきます。



『中村哲物語 大地をうるおし平和につくした医師』

松島恵利子/著（汐文社）2022年

長く続く戦争と大干ばつに苦しむアフガニスタンの人々。現地で医療支援を行っていた中村医師は、水不足によって苦しみの中命を落とす子どもたちを前に、白衣を脱いで自ら井戸を掘りだしました。そして、現地の人々が生きていくための畑に用水路を引き作物を蘇らせ、多くの命を救ってみせたそうです。医師という括りにとらわれず、行動を起こしていく中村先生。先生の生きた軌跡をたどるこの1冊は、これからの生き方を考えるきっかけになる本です。



『夏の庭-The Friends』湯本香樹実/作（徳間書店）2001年

近所に住む一人暮らしのおじいさんがもうすぐ死にそうだと聞きつけ、死んだ人に興味を持った3人の少年が、おじいさんを見張り始めることに。はじめのうちは少年たちを追い返そうとするおじいさんでしたが、見返してやろうと生き生きしはじめ、次第に彼らを受け入れるようになっていきます。やがて3人の少年はひとりぼっちで暮らすおじいさんのためにある計画を思いつき、交流が生まれるのでした。3人の少年と老人のかけがのない夏を描きます。

～ 夏におすすめの本 ～

	<p>『ぼくは満員電車で原爆を浴びた 11歳の少年が生きぬいたヒロシマ』 <small>よねざわ てつし</small> 米澤鐵志/語り 由井りょう子/文 (小学館) 2013年</p> <p>1945年夏、世界で初めて原子爆弾が広島に落とされ多くの人々が傷つき亡くなりました。生き残った人の中でもその後、後遺症で長い間苦しんでいる人が多くいます。この本はその時に爆心地近くで被爆し、電車の中にいて奇跡的に生き残った数少ない一人、米澤鐵志さんが戦争と原爆の悲さんな様子と平和の大切さを訴え続けた本です。読むのがつらい内容も書かれていますが、私たちが決して忘れてはならない歴史の体験記です。</p>
--	---

	<p>『真昼のユウレイたち』岩瀬成子/作 芦野公平/絵 (偕成社) 2023年</p> <p>春海は、夏休みにお友達のおおおさんの家に遊びに行きます。そこで、小さなかわいい女の子と知り合いになりました。親しくなってくると、おおおさんと女の子のとっても不思議な関係に気が付いてしまいます。その関係とは?! かわいい女の子・優しいお母さん・戦争で死んでしまった男の人・飼っていた猫。4つの不思議なお話に描かれている、ユウレイ達は、大切に想う気持ちや懐かしい想いを持っていると、そっと優しく寄り添ってくれます。</p>
---	--

	<p>『レイさんといた夏』安田夏菜/著 (講談社) 2016年</p> <p>コミュニケーション能力の無さを自覚する主人公莉緒は、夏のある日、莉緒だけに見える女性レイさんと出会います。レイさんから、自分が何者であるか思い出せるように、手伝ってほしいと頼み込まれます。莉緒は、手伝いをするために、レイさんとコミュニケーションを取りながら、自分自身や家族を見つめ直す事になります。暑い夏にちょっとずずしくなる幽霊のお話は、いかがでしょう？ 幽霊と知り合いになるのも意外と良いことなのかも知れません。</p>
--	---

夏におすすめの本一覧 (五十音順)

- ・ 『朝顔のハガキ』
- ・ 『生き抜け！ 遭難の五日間』
- ・ 『江戸の空見師 嵐太郎』
- ・ 『ケンガイにっ！』
- ・ 『こどもとできるやさしい金継ぎ』
- ・ 『スイマー』
- ・ 『中村哲物語』
- ・ 『夏の庭』
- ・ 『ぼくは満員電車で原爆を浴びた』
- ・ 『真昼のユウレイたち』
- ・ 『レイさんといた夏』

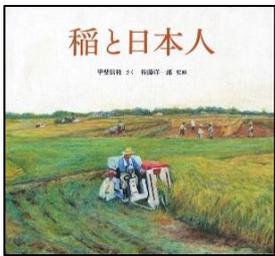
～ 秋におすすめの本 ～

『雨の日は好きな人』 佐藤まどか/著（講談社）2022年



母子家庭で育った七海はおかあさんの再婚を喜び、新しいおとうさんと新しいおねえちゃんを気持ち良く迎えることができました。しかしおかあさんたちは、ずっと入院しているおねえちゃんを心配し、七海をほったらかしにしています。家族が増えるのを楽しみにしていた七海でしたが、思い通りにいかないこともしっかり受け入れるのでした。複雑な家庭の中で揺れ動く少女の心を描いています。

『稲と日本人』 甲斐信枝/著 佐藤洋一郎/監修（福音館書店）2015年



秋になると田んぼにたくさんの稲が実る風景を目にしますよね。小学校の社会科の授業では、5年生で『米作りのさかんな地域』の学習を行います。実際にバケツで米作りを体験する学校もあるそうです。二千数百年前に稲作が伝来して以降、日本人は森を切り開き、数多くの災害に見舞われながらも、現在まで稲作を続けてきました。そんな稲作が日本人にとってどんな存在であったのか。稲作の歴史や文化とともに、日本人のこころも伝えてくれる1冊です。

『髪がつなぐ物語』 別司芳子/著（文研出版）2017年



長く伸ばした自分の髪の毛を寄付する“ヘアドネーション”。寄付された髪の毛は丁寧に処理され医療用のウィッグとして病気などの理由により髪を失った子どもたちに使われます。この本では、髪の毛を寄付する人、髪の毛を寄付してもらう人とその間のヘアドネーションを専門に行う団体、それぞれの想いを丁寧に取材し書かれています。暑かった夏が過ぎ、髪の毛を切ってイメージチェンジしたいなあと思った時少し思い出してほしいなと思います。

『銀杏堂』 橘春香/作・絵（偕成社）2016年

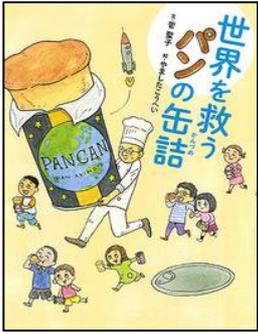


小学生の女の子レンちゃんが毎日のように通うのは『銀杏堂』という骨董こっとうのお店です。小さいお店でこまごましたものがたくさんならんでいます。「いなずまのかげら」「朝つゆのクモの巣のネックレス」「親指のんだくれ猿」・・・少し変わった名前がついた、一つ一つの品物にまつわる不思議なお話を、若いころはものすごい美人だったにちがいないおばあさん、高田さんがしてくれました。不思議な夢のような物語です。

～ 秋におすすめの本 ～

『世界を救うパンの缶詰』 菅聖子/文 やましたこうへい/絵

(ほるぷ出版) 2017年



阪神淡路大震災をきっかけに、長期保存できるおいしいパンを被災者へ届けたいと街の小さなパン屋さんが「パンの缶詰」を作りました。現在では非常食として備蓄するだけでなく国内外の災害被災地や食糧問題を抱える国や地域へ届ける『救缶鳥』プロジェクトとしてたくさんの人々を救っています。困っている人のためにと“あきらめない心”が生み出した驚きの缶詰誕生の秘密をのぞいてみてください。

『中学生が伝える恐ろしいやまい・地方病』 堀真一郎/監修

南アルプス子どもの村中学校ゆきほたる荘/著 (黎明書房) 2023年



昔の山梨には、おなかだけがふくらんで、手足はやせ細り、やがて亡くなってしまう恐ろしい病気が存在しました。地方病「日本住血吸虫」にほんじゅうけつきゅうちゅう。4年生の冬に学習をした学校も多いのではないのでしょうか。本書は山梨県の中学生在が実際に調べ、絵や写真を交えて作り上げた1冊です。多くの人々の努力で国内では撲滅された「地方病」について優しくまとめられています。山梨県で暮らしている子どもたちにはぜひ知っておいてほしい内容となります。

『トッケビのこんぼう』 チョン・チャジュン/文 ハン・ビョンホ/絵

藤本朝巳/訳 (平凡社) 2003年



韓国の昔話です。若者が山にたぎぎを拾いに行く途中で、ハシバミの実を拾います。「お父さん、お母さんにあげよう」とポケットに入れます。ハシバミは栄養があって美味しいからです。そんな若者がトッケビ達のすみかで、こんぼうを手に入れます。こんぼうからは色々な宝物が出てきます。それを見ていた欲張りな男がトッケビのすみかに出かけます。さて、どうなるのでしょうか。はじめのはなしを読んでから、本を逆さにしてつづきのはなしを読みます。

『梨の子ペリーナ』 イタロ・カルヴィーノ/再話 関口英子/訳 酒井駒子/絵

(BL出版) 2020年



イタリアの昔話です。梨の木を育てている男は、王様におさめる梨が足りないので娘を宮殿に送ります。娘はペリーナと呼ばれ働くことになりますが、王子様と仲良くなり、みんなからヤキモチを焼かれ、王様にウソの告げ口をされます。王様から、無理な命令をされお城を後にしたペリーナは、梨の木の下にいたおばあさんの言いつけを守り冒険にでかけます。王様の命令を守れるでしょうか？酒井駒子さんの絵が、お話の不思議な雰囲気盛り上げています。

～ 秋におすすめの本 ～

	<p>『美術館って、おもしろい！ 展覧会のつくりかた、働く人たち、美術館の歴史、裏も表もすべてわかる本』 モラヴィア美術館/著 阿部 賢一・須藤 輝彦/訳（河出書房新社）2020年</p> <p>みなさんは美術館にはどんな歴史や仕事があるか知っていますか。美術館の元になった言葉は古典ギリシア語の「ムセイオン」。遠い過去の美術品をあるべき場所に移し、修復して展示するという公共美術館の起源は、1506年にローマのぶどう園で発見された古代彫刻をバチカンに展示したことに遡ります。また、美術館がどのように作品を手に入れ、盗難から守り、展覧会を開催するのかなどの美術館の仕事についても、緻密な絵とともにわかりやすく描かれています。</p>
--	---

	<p>『ひと箱本屋とひみつの友だち』赤羽じゅんこ/作 はらぐち あつこ/絵 （さ・え・ら書房）2023年</p> <p>本好きの小学5年生の朱莉は、歩きながら本を読んで転んでしまい、「ひと箱本屋カフェ」の店主・沙絵にけがの手当をしてもらいました。店内で販売していた手作りの本『ユメと貝殻の魔法』に惹かれた朱莉は、その本を書いた小学6年生の理々亜と友達になりたいと思い、手紙を書きます。二人で会う約束の日、カフェで待つ理々亜が車椅子に乗っているのを見て朱莉はためらいを感じますが、好きな本の話で二人はすぐにうち解け、仲良しになりました。</p>
---	--

	<p>『ものづくりっておもしろい！おもちゃから乗り物まで』 小林竜太/著 （偕成社）2022年</p> <p>エンジニアとして、設計やプログラミングをしている著者が、今まで作ってきたものやものづくりの面白さを紹介します。著者がつくっているものは乗る人も、見ている人も楽しくなれる「移動を楽しむ乗り物」や毎日の生活を少し楽にしてくれる「便利グッズ」のようなものです。作りたいものの見つけ方、失敗を積み重ねる大切さなども参考になります。未来のために役立つものをつくるヒントが見つかるかもしれません！</p>
--	--

秋におすすめの本一覧（五十音順）

- ・ 『雨の日は好きな人』
- ・ 『トッケビのこんぼう』
- ・ 『稲と日本人』
- ・ 『梨の子ペリーナ』
- ・ 『髪がつなぐ物語』
- ・ 『美術館って、おもしろい！』
- ・ 『銀杏堂』
- ・ 『ひと箱本屋とひみつの友だち』
- ・ 『世界を救うパンの缶詰』
- ・ 『ものづくりっておもしろい！』
- ・ 『中学生が伝える恐ろしいやまい・地方病』
- おもちゃから乗り物まで』

～ 冬におすすめの本 ～

『あきらめなかった男 大黒屋光太夫の漂流記』（静山社）2019年

小前亮/作 おとないちあき/絵



江戸時代後期、伊勢の国から江戸に向かっていた大黒屋光太夫の船は、嵐のために北の海に流されて半年後、北の孤島にたどりつきました。厳しい寒さや少ない食べ物、燃料などの中で仲間はずっと倒れてしまいましたが苦難を乗り越え、自分たちで船をつくり島を脱出しロシア帝国にやっとたどり着くことができました。漂流してから10年近い年月をかけてやっと日本への帰国を許された光太夫たちを描いた、本当の歴史に基づいて書かれた壮大な物語です。

『あした、また学校で』 工藤順子/著（講談社）2019年



十一月にはじまった大縄跳びの練習。そこで先生に言われた言葉がきっかけで、弟の将人は学校に行けなくなってしまいます。兄の一将は弟の事件から胸にもやもやがたまっていきます。そして、そのもやもやは学校全体を巻き込んでひとつの疑問を浮かび上がらせました。「学校は、だれのものなのか?」。小学生・親・先生と色々な人の物語が動く中、この問題の答えを一将たちは見つけることができるのでしょうか?

『いいたいことがあります!』 魚住直子/著 西村ツチカ/絵

(偕成社) 2018年



小学6年生の陽菜子は、母親から自分ばかり家の手伝いをさせられることを不満に思っていました。兄は部活や勉強で忙しいのを理由にやらなくてもよいのです。ある日、友達と遊ぶため塾に遅れて行こうと考えていたとき、いきなり知らない女の子が現れて、陽菜子に塾への連絡のアドバイスをして消えてしまいました。女の子がいた場所には古い手帳が落ちていて、そこには陽菜子が母親に言いたかったことが書かれていました。

『風になった優ちゃんと学校給食』 馬場錬世/著（評論社）2024年



想像してみましょう! 全国の小学校でお昼にいっせいに給食が出されて「いただきます」をして食事をしています。すごいですね。日本ではふつうであたりまえの様にみんなの前に届く給食ですが外国には少ないそうです。給食にはとてもたくさんの人たちの工夫や協力があって、おいしくて安全で栄養のある給食が作られていることがこの本でよくわかります。毎日の給食の時間がちょっと違って見えるかもしれません。

～ 冬におすすめの本 ～

『きみの鐘が鳴る』 尾崎英子/作 (ポプラ社) 2022年



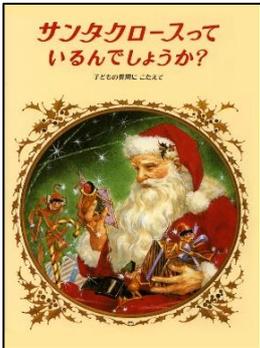
中学受験に奮闘する4人の小学6年生とその家族の物語です。友達とうまくいかないつむぎ。父親の過度の期待を受ける涼真。得意不得意の浮き沈みを持つゆいな。一見問題なさそうに見えるけれど不登校のお姉さんを持つかりん。個性もバラバラな子ども達が、同じ塾に通い、目標に向かい努力します。希望どおりの結果が得られるとは限りませんが、頑張ったことは無駄にはなりません。すべての子どもに祝福の鐘が鳴ると伝わってくるラストです。

『サンタクロースが生まれた日』 アラン・スノウ/作 石井睦美/訳
(小学館) 2022年



トナカイを飼っている一家の長男は、まっくらになる冬は大急ぎでトナカイにえさやりをします。ある日トナカイを飼っている囲いの扉が開いていることに気が付きます。男の子はトナカイを追っていき、不思議な生き物たちと出会います。そして、生き物たちからある交換条件を言われます。その交換条件とは。そして、どうして男の子がサンタクロースになったのかアラン・スノウさんの色彩豊かな絵とともにサンタクロースの誕生を知ることができます。

『サンタクロースっているんでしょうか?』 フランシス=P=チャーチ/著
中村妙子/訳 東逸子/画 (偕成社) 1986年



みなさんは、サンタクロースっていると思いますか? 今から、約130年前にこの質問を、アメリカのバージニアという少女が新聞社に送りました。新聞社の記者は、小さな少女の質問をしっかり受け止めて、新聞紙上で回答します。その質問と回答がこの本になりました。想像力を働かせ、見えない物に心を動かす事のできる心豊かな人になってほしいと、この本は伝えています。「サンタのともだちバージニア」という本も読んでみてください。

『空から宝ものが降ってきた! 雪の力で未来をひらく』 伊藤新臣/著
(旬報社) 2016年



SDG s 17の目標を掲げ世界各国がいろんな取り組みを行っています。この本で紹介されている事例はSDG sが決まる以前より新潟県で行われていた利雪(雪を何かに利用する)活動です。雪というエネルギーに注目し、雪冷房システムを学校に導入、お米を貯蔵する雪冷蔵倉庫などに利用します。ハンディキャップである豪雪地帯の雪を逆手に取り、町づくりに組み込んでいったのです。雪にはまだまだ無限の可能性があるのでと教えてくれる作品です。

～ 冬におすすめの本 ～

	<p>『チョコレート大王さま』マイケル・レーベンサール/文 ラウラ・カタラン/絵 宮坂宏美/訳（あかつき教育図書）2024年</p> <p>この本は、本当の話を元に書かれています。現在食べているチョコレートは、固まっているものが一般的です。でも、今から約400年前、チョコレートの材料カカオが本格的に作られるようになった頃は、温かい飲み物として飲まれていました。スペインで飲まれていたチョコレートは、スペインに住む主人公バンジャマン一家の引っ越しと共に、フランスに伝わり、世界中に広まりました。寒い冬この絵本を読みながら、ホットチョコレートで温まってみませんか？</p>
--	---

	<p>『ぼくのお姉さん』丘修三/著（偕成社）1986年</p> <p>障害を持つ人とそれを支える家族をテーマとしている6つの短編集です。「ぼくのお姉さん」では障害を持つお姉さんが働いて得た、はじめてのお給料が家族にもたらした小さな奇跡を描いています。お姉さんの喜びと家族の感激の様子が伝わってきます。「歯型」では自分を守るために障害のある子どもにつらくあたってしまいうるせなさを表現しています。養護学校の先生だった作者の障害者理解への思いのこもった作品です。</p>
---	---

	<p>『星明かり』熊谷千世子/作 宮尾 和孝/絵（文研出版）2020年</p> <p>昴は小学6年生の女の子。名前のせいで、男の子に間違えられたり、からかわれたりします。昴のお母さんは、昴が生まれてすぐに亡くなってしまい、今は父親と新しい母親、その間に生まれた妹との4人暮らしです。家族の中で「わたしだけ違ってると」感じ始めたある日、冬休みの宿題で自分の生い立ちを調べることになりました。父親から、昴という名前は昴を産んだお母さんがつけてくれたものだ聞いて、昴はお母さんの実家に行ってみることにしました。</p>
--	--

冬におすすめの本一覧（五十音順）

- ・ 『あきらめなかった男
大黒屋光太夫の漂流記』
- ・ 『あした、また学校で』
- ・ 『いいたいことがあります！』
- ・ 『風になった優ちゃんと学校給食』
- ・ 『きみの鐘が鳴る』
- ・ 『サンタクロースがうまれた日』
- ・ 『サンタクロースっているんでしょうか？』
- ・ 『空から宝ものが降ってきた！』
- ・ 『チョコレート大王さま』
- ・ 『ぼくのお姉さん』
- ・ 『星明かり』

令和7年3月31日

編集・発行：山梨県公共図書館協会 児童奉仕研究部会Dブロック

山梨県立図書館	(Tel 055-255-1040)
甲府市立図書館	(Tel 055-235-1427)
中央市立田富図書館	(Tel 055-274-3311)
中央市立玉穂生涯学習館	(Tel 055-230-7300)
中央市立豊富図書館（分館）	(Tel 055-269-4011)
昭和町立図書館	(Tel 055-275-7860)